

超伝導応用技術開発ロードマップと現状

概要

高温超伝導体の発見から30年が経過し、パワー応用、デバイス応用ともに実用化レベルに達しつつあると言って良い状況である。そのような中、国際的には International Energy Agency を中心に2030年までの主にパワー応用と線材開発についてのロードマップが昨年まとめられ、また国内ではNEDOを中心に超伝導技術戦略ロードマップが昨年まとめられたところである。そこで、本シンポジウムにおいては、これらのロードマップの紹介およびその背景を招待講演者に講演いただくとともに、いくつかの応用開発の技術開発の現状について、一般講演にて報告いただく。

日時

2017年3月14日(火)
13:45~17:15

会場

F203

講演者

13:45-14:30 The IEA HTS Roadmap and the European status of Electric Power Sector Applications
Martini Luciano (Ricerche sul Sistema Energetico - RSE)

14:30 -15:00 木下 晋 (NEDO) 「NEDOにおける超電導技術開発」

15:00 -15:15 吉田 隆 (名大工) 「人工ピン導入SmBa₂Cu₃O_y線材の微細組織と磁場中超伝導特性」

15:15-15:30 土井 俊哉 (京大) 「Cuテープを基材とした低コストMgB₂線材の開発」

15:45-16:15 日高 睦夫 (産総研) 「超伝導エレクトロニクスの課題と展望」

16:15-16:45 圓福 敬二 (九大) 「超伝導センサを用いた先端計測システム」

16:45 -17:15 大崎 博之 (東大新領域) 「IEA高温超伝導ロードマップとわが国の超伝導応用電力機器開発現状」

